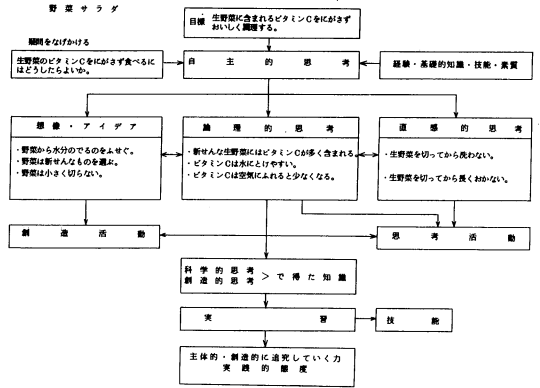


表2 題材 野菜サラダの作り方(実習の事前指導)
 目標 野菜のビタミンCをにがさずおいしく調理する方法や
 調味は食べる直前がよいことを理解させる。
 指導課程

過程	学習内容	学習活動	指導上の留意点	準備
課題 を 提 げ	1. 野菜のビタミンCをにがさず調理するにはどうしたらよいか。	個人またはグループで予想や疑問点を自由に出しあう。	日常の経験や基礎的知識・技能をもとに自由に考えさせ発表させる。	野菜サラダの作り方図
	2. 野菜の調理上の問題点	発表を中心に問題点をまとめる。(予想) (1)ビタミンCは目に見えないからわかりにくい。 (2)ビタミンCは水にとけやすい性質があるから切ったから洗わない方がよいと思う。 (3)洗った後、水をよく切っておく。 (4)味をつけておいたらどうなるだろうか。	一人一人の問題意識をたいて十分に、問題点をまとめる。	
学習 の 見 と お し	3. ビタミンCに関する問題点の実験	(1)キャベツの洗いやビタミンCの損失 (2)きゅうりの放水実験 (3)味つけの基本	課題を実証的に追求させることによって学習への興味関心を持たせ、課題解決の喜びを得させるようにする。 ・縦切りキャベツから水中にビタミンCの流出していることを気づかせ、調理に生かすようにさせる。 ・きゅうりは切っただけでは水分が出ず、塩味をつけると放水の多いことに気づかせる。 ・きゅうりから出た水分中にビタミンCの含まれていることを試験により観察させる。	ピーカー(大)、キャベツ 2-6ジコロールフェノール インドフェノール きゅうり・塩 ロート シリンジ シャーレ 調味なし 塩で調味
	4. 野菜サラダの作り方	(1)一人分の材料・分量・作り方を調べる。 (2)必要な用具の使い方を調べる。 (3)フレンチソースの作り方を調べる。	野菜の塩味は1~1.5%が適当であることをわかるもの。比較実験により調理の科学的思考を深めさせる。 ・調理用具、食器類の取り扱いでは衛生に注意させる。	野菜の実物 計量器具 調理器具 塩のとり具合
	5. まとめ	野菜の扱い方及び味つけと食べる時期の関係についてまとめ。	野菜サラダにどんな食品を組み合わせたら、栄養的な食物になるか気づかせる。	試験管 塩+す 塩+油 塩+油

表1 主体的・創造的な実践意欲を育てる指導過程



である。

二、学習の評価が適切に行われるようにする

目標行動の設定により、その到達度を検討し、教師の指導法の反省・改善の手がかりとしたい。

前提テスト、事前テスト、授業途中テスト(形成的評価)、事後テスト等の評価問題は、目標行動を分析し、下位目標が決定すれば、それに適合するものを作成することができる。表3は表2の指導の目標行動の分析である。

表3 野菜サラダの作り方の目標行動の分析

最終目標行動
野菜の特ちょうをあげることができ、ビタミンCをにがさず調理する要点がわかる。
第一次下位目標行動
(1)野菜サラダを作るのに用いられる材料の栄養及び、見分け方がわかる。 (2)野菜サラダを作るに必要な材料がわかる。 (3)ビタミンCの調理上の性質及び、野菜サラダの調理法の要点がわかる。 (4)調理用具の扱い方がわかる。
第二次下位目標行動(紙面の都合により第一次の(3)に該当するもののみ)
(1)ビタミンCは水にとけやすいことがわかる。 (2)ビタミンCは空気ふれると少なくなるがわかる。 (3)きゅうりやキャベツは細く切ったから洗うと、ビタミンCの損失が大きいことがわかる。 (4)きゅうり、キャベツに塩味をつけると放水し、しんなりすることがわかる。 (5)野菜とフレンチソースは食卓に出す直前にあえるとよいことがわかる。

中学校

技術・家庭科では、本年度の努力点として次の三つをあげている。

一、実践的活動が中核となって学習が展開されるように指導計画を改善する。

二、知る、考える、行うの三つの活動の相互関連を図り、教材を構造的にとらえた指導法をくふうする。

三、施設、設備の改善、充実を図り、安全教育に徹し、事故防止に努める。

これら三つは、各学校の実情に即し更に、努力点を明確にして実践していくべきである。ここでは、実習が学習活動の中心となるので、実習指導と安全管理について配慮すべき事項を述べる。

(一) 学習活動の種類

生徒が、学習に明確な目的意識をもち、具体的な手続きを踏んで、生活に有用なものを作るといふ考え方に基づいて、計画を立てることが必要である。

(二) 製作的学習

製作的活動が主となる領域では生徒の活動が活発になるけれども、ややもすると興味にまかせて、製品の完成を急ぐ傾向がみられ、学習の進度がふぞろいになる。そのため、計画の段階を尊重し、みずからの能力に応じて効果的な学習が進められるように指導する。

(三) 整備的学習

機構、機械要素、機械材料などに関する知識や理論を取り上げる題材と関係なく列的あるいは体系的に説明することがある。このような指導では、活用される能力とはならないので、具体的な体験とおして指導する必要がある。

二、学習活動の組織

学習活動の形態は個別学習、グループ学習、いっせいで学習の三つの型が考えられる。これらの学習活動の組織には、それぞれの特徴があるの